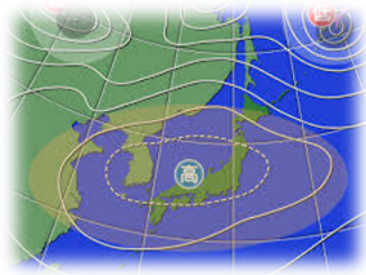


## 移動性高血圧になってまった



9月になり、

「今年も無事お盆月を乗り切った！」と思いきや、強烈な台風 21 号で怖い思いをしたあげく境内の後片付けに追われ、翌々日には北海道で大地震が発生し驚き悲しみ、秋雨前線の停滞ですっきりしない天気が毎日続き血圧も上がり気味です。私は高血圧ですが、早く 10 月になり移動性高気圧がバンバン来して欲しいものです。そう言えば4月から毎朝みているNHK朝ドラ『半分青い』もあと2週間で終了です…

昨日の昼下がり J R 岐阜駅前大通りの歩道橋を歩くと、その主題曲を歌っている「星野源」の顔が荷台一面に描かれた大型トラックが停止しました。場所が場所ですから荷台のウイングが華々しく開き彼のゲリラステージが始まるのではと多くの人が立ち止まりました。その瞬間を逃すまいとみんなスマホを手にかまえています。しかしここは渋谷の交差点ではありません。妄想です。その運転手のお兄ちゃんが通り沿いのコンビニでお弁当を買いに行っただけで、皆の期待は裏切られました。

この出来事と同じように、ドラマのなかの岐阜弁のセリフにも期待をしました。豊悦さんが熱演した『やってまった』と、主人公の鈴愛が驚いた時に言う『ふぎよぎよ』です。「この際

2点セットで流行語大賞はどないだ！」と期待したのですが全国的に冷めているようです。近年の『あまちゃん』で話題になった「じえじえ」のようにはなりません。その辺の地味さが岐阜県らしいのですが… それに困ったことに、他府県にお盆参りに行った時に「ふぎよぎよ」について何回か質問がありました。忙しいので適当に説明して帰りました。※その昔、海無し藩の美濃の民が、海の王様クジラは魚類ではなく我々と同じ哺乳類であることを初めて知った時に、あまりにも衝撃的だったため思わず発せられた言葉だと伝えられています。ちなみに漢字では「不魚魚」と書きます。

ドラマが終盤に入り、半ば人生に挫折した主人公の鈴愛と律が扇風機の風ではなく草原を吹き抜ける「そよかぜ」のようなやさしい風を生む機械を発明するという展開になってきました。これには脚本家の北川悦吏子さんに予知能力があるようなストーリーに驚かされました。折しもこの頃、岐阜市内の病院にて冷房施設の故障が原因と疑われる熱中症でご高齢の入院患者 5 名が立て続けに亡くなるというニュースが世間を騒がせていました。院長は扇風機 9 台で対応したと釈明していました。幼少のころ母方の祖母が「台風風の風にあたらだめだよ」と言ったのを覚えています。渦を巻いた風は弱者の体には大きな負担になるそうです。岐阜の山里の自然のなかで生まれ育った人です。昔の人の「知恵」の言い伝えだそうです。俊徳丸 ※「ふぎよぎよ」は方言ではありません。脚本家の造語だと思われます。筆者のその場で思いついたデタラメです。ご注意ください。